

都市再生整備計画(藤沢駅周辺地区(第2期)) 事後評価シート(原案)について

■ 事後評価シート(原案)の公表について

藤沢市では、「藤沢駅周辺地区(第2期)」において、令和3年度～令和7年度にかけて、持続可能で強靭な都市構造へ再編を図るために都市再生整備計画を策定し、事業を行ってきました。

この度、当事業が完了し、交付金を活用したまちづくりの事後評価を行い、まちづくりの成果や今後のまちづくり方針などを事後評価シート(原案)に取りまとめましたので、公表します。

■ 都市再生整備計画(都市構造再編集中支援事業)とは

都市再生特別措置法に基づき、都市機能や居住環境の向上、居住誘導を図ることを目的に市が策定し、その内容は、立地適正化計画に基づき、まちづくりの目標や数値指標を達成するために必要な事業を記載した計画です。また、この計画に基づく事業の経費の一部に、国から交付される補助金を活用することができます。

■ 事後評価のスケジュール

作業項目	日程
事後評価シート(原案)の公表及び意見の募集(パブリックコメント)	2025年12月3日(水) ～2026年1月5日(月)
藤沢市都市再生整備計画等事後評価委員会における審議	2026年2月予定
事後評価の県や国への報告	2026年3月予定
事後評価結果の最終公表	2026年4月予定

■ 都市再生整備計画(藤沢駅周辺地区(第2期))の概要

藤沢駅周辺地区(第2期)は、市都心部に位置し、また超高齢社会を迎える市全体のコンパクトな都市構造を形成する上で核となる拠点地区であることから、活力とぎわいのまちづくりを目指し、かつ安全・安心の観点を踏まえ、再活性化に向けた藤沢駅周辺地区再整備事業を推進しています。

そこで、平成28年度より交付金を活用し、藤沢の玄関口にふさわしいにぎわいや交流のある駅前づくりを目的に事業を行ってきました。本計画では、藤沢駅南北自由通路の整備や道路空間の高質化、またバリアフリー機能の拡充等を行い、快適で回遊性の高い歩行ネットワークの強化等の事業を行いました。

まちづくりの目標

令和3年度～令和7年度にかけて、以下の目標を掲げ、都市再生整備計画事業を実施しました。

大目標 藤沢の玄関口にふさわしい、にぎわいや交流を創出し、周辺地域へつなぐ駅前づくり

小目標① 魅力ある滞留空間・交流拠点の創出

小目標② 交通結節点の機能向上及び快適に歩ける空間の創出

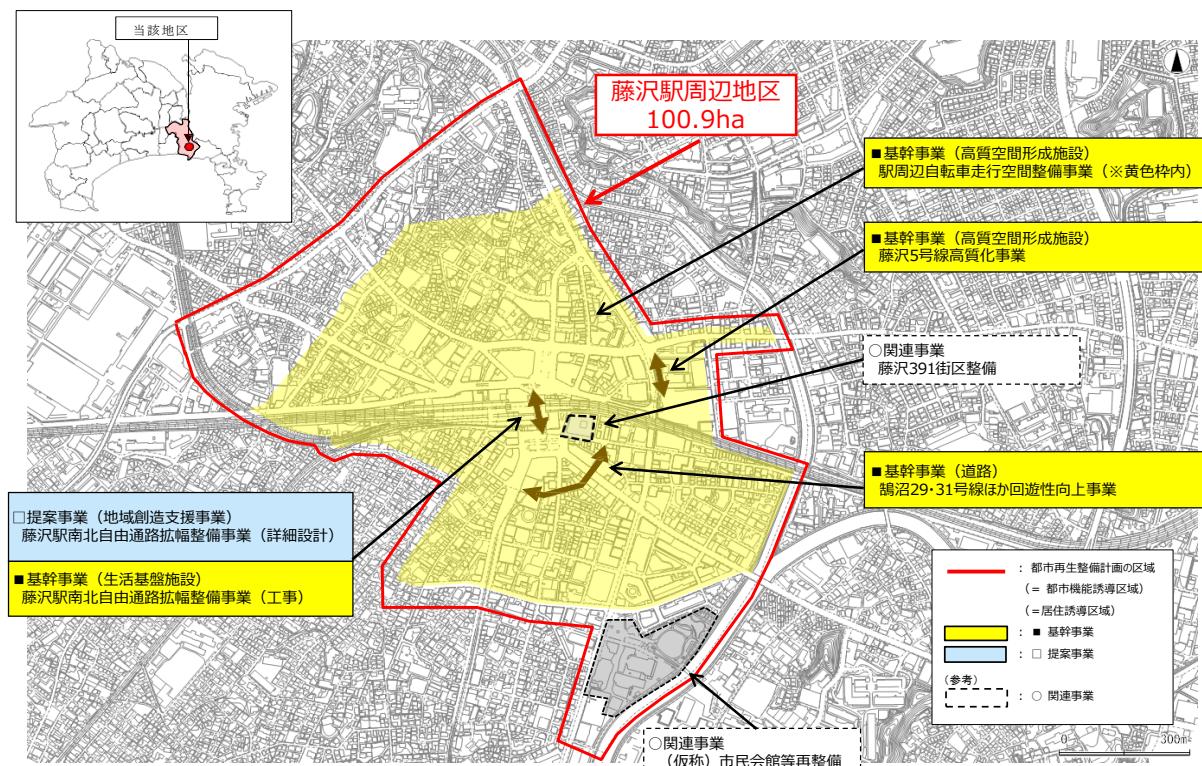
実施概要

対象区域：約 100.9ha

事業期間：令和3年度～令和7年度

事業内容：車道・歩道の修繕、自転車ネットワーク路線の整備、小田急線改札口の橋上化、
藤沢駅南北自由通路の拡幅 等

対象区域図



主な事業とその効果

①鶴沼 29・31号線ほか回遊性向上事業（小目標②に関連する事業）

車道や歩道の舗装修繕や点字ブロックの変更により、快適に歩ける空間として機能向上を図りました。



整備前



整備後

②駅周辺自転車走行空間整備事業（小目標②に関連する事業）

自転車のネットワークを構築するため、道路に矢羽根や自転車ピクトグラム等の整備を行い、安全で快適な歩行空間と自転車走行空間を確保しました。



整備前



整備後

③藤沢5号線高質化事業（小目標②に関連する事業）

歩道幅員の拡幅や舗装の美化化、植栽の設置等で高質化を図ることで、快適で賑わいのある新たな歩行・道路空間の創出を目的とした道路整備を行いました。



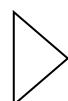
整備前



整備後

④藤沢駅南北自由通路拡幅整備事業（事業および詳細設計）（小目標①・②に関連する事業）

藤沢駅南北自由通路について、小田急線改札口の橋上化を行い、交通結節点の機能向上を図ります（令和7年度末供用開始予定）。また、藤沢の玄関口にふさわしい魅力ある滞留空間の創出等に向け、通路の拡幅整備を行っています。



整備前

整備後（イメージ）



事後評価の概要

令和7年度が事業の最終年度にあたり、事業成果の評価、検証を行いました。

都市再生整備計画では、以下の4つの数値指標を設定しています。

指標1	滞留関連施設利用者数
指標3	歩行者空間の快適度

指標2	イベント開催日数
指標4	自転車の歩行阻害割合

指標の達成状況

①数値指標の結果

それぞれの目標の達成状況は、以下のとおりとなっています。

	指標名 (指標の定義)	従前値 (R2)	目標値 (R7)	評価値 (R7)	達成度
1	滞留空間の魅力度 (自由通路等における滞留関連施設を「魅力的」と感じる人の割合)	12.8%	19%	87% (推計値※)	達成

1 自由通路の一部拡幅や小田急線改札口の橋上化が完了することにより、魅力ある滞留空間・交流拠点の創出や交通結節点の機能が向上されることが期待され、整備後の滞留関連施設を「魅力的」と感じている人が増加したため、目標達成としました。

	指標名 (指標の定義)	従前値 (R2)	目標値 (R7)	評価値 (R7)	達成度
2	イベント開催日数 (藤沢駅周辺において、1年間で開催されたイベント日数)	20日/年	40日/年	81日/年	達成

2 整備した施設等を利用し、地域が主体となったエアマネジメント組織等が様々なイベントを実施していることにより、魅力ある滞留空間・交流拠点が創出され、イベント開催日数が増加したため、目標達成としました。

	指標名 (指標の定義)	従前値 (R2)	目標値 (R7)	評価値 (R7)	達成度
3	歩行者空間の快適度 (自由通路等の歩行に際して「快適」と感じる人の割合)	20.4%	30%	85% (推計値※)	達成

3 自由通路の一部拡幅や小田急線改札口の橋上化が完了することにより、魅力ある滞留空間・交流拠点の創出や快適に歩ける空間が創出されることが期待され、整備後の自由通路等の歩行に際して「快適」と感じる人が増加したため、目標達成としました。

	指標名 (指標の定義)	従前値 (R元)	目標値 (R7)	評価値 (R7)	達成度
4	自転車の歩行阻害割合 (歩道がない道路における自転車の逆走割合及び歩道がある道路における自転車の歩道走行割合)	逆走割合	28.4%	25.6%	達成
		歩道走行割合	16.8%	15.1%	

4 駅周辺道路の整備事業を実施したことにより、快適に歩ける空間が創出され、自転車の歩行阻害割合が減少したため、目標達成としました。

※南北自由通路の拡幅や小田急線の改札口の移設に関する事業は、現時点で完了していません。そのため、整備後の完成イメージをもとにアンケート調査を実施し計測した結果を「推計値」としています。事業完了後に、再度アンケート調査を実施し、確定した評価値を計測します。

【指標の出典】

- 指標1：藤沢駅周辺地区における再活性化の取り組みに関するアンケート(R2.9、R7.9時点)
- 指標2：イベント日数実績より算出(R2年度、R7.7時点)
- 指標3：藤沢駅周辺地区における再活性化の取り組みに関するアンケート(R2.9、R7.9時点)
- 指標4：藤沢駅周辺自転車走行空間整備効果測定(R元.10~12、R5.11及びR7.9)

まちの課題の変化

今回の事業によって、まちの課題がどのように変わってきたのかをまとめました。

- ・藤沢駅南北自由通路の一部拡幅や行政サービス機能の中心である市役所周辺の道路の高質化、駅周辺でのイベント開催により、駅を中心としたまちの拠点としての機能が強化されました。一方で、自由通路や更新が必要な駅南口の施設等の整備を進め、まち全体としての求心力を向上させ、また、イベント時に限らない日常的な交流・活動の場づくりが必要です。
- ・駅北口において、地域が主体となったイベントを開催したことにより、にぎわい創出やまちの活力向上が図られました。一方で、駅北口だけでなく南口や周辺地域の施設等も有効活用し、周辺地域全体へのにぎわい波及や活力向上が必要です。
- ・藤沢駅南北自由通路の一部拡幅、改札口の橋上化やユニバーサルデザイン導入により、駅の利便性や安全性が向上し、自転車ネットワークの整備により安全な回遊性の向上が図られました。一方で、南口駅前広場等において、バリアフリー化による利便性や安全性の向上が必要です。

今後のまちづくりについて

今回の事業を踏まえ、今後のまちづくりについてまとめました。

- ・駅を中心としたまちの拠点性強化とにぎわいの創出に向け、駅周辺のほか、道路空間や公共施設等も活用し、市民等の日常的な交流・活動機会の創出を図ります。
- ・周辺地域全体へのにぎわい波及や活力向上に向け、駅利用者だけでなく、市民等にとっても魅力的に利用したくなる駅及び駅周辺の環境整備を行います。
- ・駅や駅周辺の利便性や回遊性、安全性の向上に向け、交通結節点として駅南北間の連携強化や良好な自転車環境の維持・向上を図るとともに、駅北口だけでなく駅南口においても老朽化した都市施設等の機能更新を行います。